

地域公益的取組・ボランティア活動に関するアンケート

実施時期 令和4年10月

アンケート送付数 101事業所

回収数 27事業所 (回収率 26.7%)

(1)コロナ下における調査

1 コロナ下での活動において、課題と感じたこと

(高齢)

- 感染予防しながらの活動方法が思いつかなかった
- 重症化リスクが高い高齢者を対象としている施設では不特定多数の人と接触を減らす必要があり、いままでのように多くの人を施設内に出入りしてもらうのは難しい。また家族が望まない
- 活動制限が有る為、ボランティアの方に活動依頼をお願いできない (特に歌などは感染に気を遣う) ため、中止の状況が続いている。施設の行事のみの実施となっている。外部との交流が出来ない。計画しても感染の増減にて中止となることもあり
- 活動の制限のためボランティアの方に活動をお願いできない為 (感染等を気にする特に歌等) 中止の状態が続いている。外部との交流ができない事もあり、園の行事のみとなっている。計画していてもコロナの状況にて中止になることもあり
- 外部との接触が基本的に難しいので、制限されている
- 現在は感染対策のため、基本的に外部との接触が出来ないので地域とのかかわりが難しい
- 外部との接触が基本的にできないので、地域とのかかわりが難しい
- 感染予防対策の実施と平行した活動の活性化
- ・コロナに対する意味の違いに差があるコト
・コロナ自粛によるフレイル
- 高齢者の居場所がないと地域の人からの声が上がり、もったもな意見と感じた。今年度は4～6月にかけて比較的行事も行えたが、7～9月は新型コロナ第7波の影響でイベント縮小をせざるを得なかった。その中で、With コロナとして、10月からイベントが再開できたことは良かった

(障害)

- イベントなどがなく、販売や外部の機関と関わる機会がほぼなくなる。
- 地域との交流については、これまで事業所主催あるいは地元主催の行事に参加させていただくことで相互交流が図れていましたが、コロナにより中止が相次ぎつながりが希薄になってきているように感じます。
- 施設関係者以外の多くの方との交わり、関係づくりを積極的に行ってきたが、そもそも人の交わり自体が制限されることとなり、あらゆる場面で課題に直面したといえます。交流や楽しみ以外でも、就労支援の面で、世間全体の活動量が低下する中で仕事量が減った課題も

ありました。

- 感染に気を配りながら活動というのが大変難しい。ある程度のリスクは承知で何かをするしかないと常々考えている。極力利用者様の希望に添った活動にしたい

(児童)

- ・限られたスペースの中で日々の生活では、密にならざるを得ない事が多い為、本来の学童の縦割りの活動が出来ないことに伴い、相互関係が希薄となった事。
 - ・地域との交流事業が出来なくなった時に、今迄の培ってきた関係を切らずに継続していくこと。
 - ・親子行事やイベントが出来なくなった。
- 子どもどうしの関わりを大切にしているが、制限せざるを得なかった。保護者の来園も制限していたので、地域の方々にご来園いただくことができなかった。
- 国及び行政の感染防止対策が何度も変更になり、その対応に追われたこと。
- 活動ができそうでできない（感染リスクそのものだけでなく、それぞれの家庭や地域団体の考え方が様々であり、そのことへの対話がしにくい状況が続いた）
- 来館してもらい、対面での活動ができないこと。SNS や zoom の活用に対する職員の知識やスキルが不足していたことと施設内での環境設備が整っていなかったこと。
- 一方向を向いてしゃべらずおやつを食べる、異年齢でのグループ活動が出来ず子どもの交流が減った。親同士も話さないで誰のお母さんかが分からないといった声があがった。
- 保護者や地域の人々を招待できるイベントを計画できない。また公共交通機関を利用した移動が出来ないので野外活動に制約がある
- 児童の安心安全な居場所としての児童館ですが、コロナ禍の中で感染防止の取組の中でしっかりとした健全育成が出来ないのが残念です
- 感染対策（消毒やマスク着用など）
 - ・園行事の制約（三密の回避等）があり、保護者との関係を作ることに苦労した
 - ・保育士がマスク着用していたため、園児は保育士の表情が分からない
- 今は改善してきているが、保育園や幼稚園に直接お伺いしたり来て頂いたりという連携がストップすること。また、地域の子育て相談の場も参加者数が減少したこと
- 地域のお祭り等の行事も中止になっており、これまでのような地域とのつながりを持つことが出来にくくなったため
- 子ども達が365日24時間生活している施設のため外部のボランティア受入だけでなく、実習受け入れやその他面会外出泊についても制限をかけざるを得なかった。また、再開を慎重に判断しており、全面開放（解禁）とはなっていない

2 1の課題に対してその解決に向けた取組(コロナ下における地域と施設・事業所・利用者のつながりを絶やさないための取組)を具体的にご記入ください。

(高齢)

- 地域包括支援センターが中心となりされている農園で収穫された野菜の袋詰めや販売を施設で協力させて頂きました。
- 広報紙やホームページなどでの情報発信 SNSの積極的活用
- 特別に何ということはおらず、交流に関して落ち着いたら実施させていただきたいとお願している
- 特別に何かをしているわけではないがコロナが落ち着いたら小学校・保育園の方とは交流を実施させていただきたいとお伝えしている
- 以前は地域のクリーン作戦に利用者とともに参加していた。現在は職員のみ参加となっているが、つながりは大切にしている
- フェイスブック、掲示板を使用して施設内の取り組みを発信
- フェイスブック、掲示板を使用して施設内の活動等を発信 洛北全域ごみ一掃作戦に職員が参加
- 感染者数に応じて感染対策の内容に幅を持たせて対応した
- 定期的な話し合いや連絡で利用者のニーズを把握し、コロナ下で行える範囲の内容・活動をする
- 地域の民生委員と単身高齢者の名簿突合は4回行っている。日常生活圏域の地域ケア会議もハイブリッド形式で一回行えた。第7波の中でも小規模で体力測定会も2回開催できた

(障害)

- 自店舗はできる限り開店し、地域のお客様もコロナ前と変わらず来店していただけた。また、地域のスーパーで定期的に販売する機会を得た。リヤカーを改造し、リヤカー販売を定期的に開始した。
- ・大学生のインターンシップや福祉実習は一部でオンラインも活用し、中止することなく継続した
- ・事業所のご利用者向けに毎月発行している「たより」の地域向け版を作成し、ポスティングや掲示をして、活動を知っていただく
- ・地域の小学校の福祉学習は、1校は施設紹介と生徒の質問に答えるビデオを作成し、校内学習に活用頂いた。もう1校は感染対策を実施しながら、職員が学校へ出向き、福祉学習の講師として授業を担当させていただき機会を得た
- 町内会への参加 地域の催し物への参加

(児童)

- ①地域交流事業が出来ない、顔と顔を合わすことが難しいならば、こちらから何かアクションを起こすことが出来ないか？と検討した結果、子どもたちのメッセージ付きプレゼント工
作を、地域の高齢者のご家庭(約100世帯)に、年に一度配布をして元気をお届けしている。
受け取られた方から「元気が出ました」「ありがとう。嬉しいです」等々の心温まるお礼の
お電話やお手紙をいただき、子どもたちも達成感と、地域とつながることの大切さを強く感
じる事が出来ています。②親子行事が出来なかった事で、我が子の日々の生活の様子を
少しでも知ってもらう為にもスライドを作成して、上映をして(密を避けるために学年ごと)
友達の関係性や成長を共有していた。
- なにもできなかった
- 利用者へは速やかに情報提供したこともあり、冷静に対応をしていただくことができたこと
は心強かった。
- 連絡をとることや、活動ができなくても対話の場を設定したりした。また、屋外でのイベン
トに切り替えたり、子ども達との玄関先での交流の実施など可能なものは工夫をして実施し
た。
- 高野児童館では、人数制限や感染対策を講じて、保護者会と協力して学童クラブの親子交流
企画を実施しました。前任の児童館では、施設の外にある掲示板に家でもできる工作や親
子遊びの紹介やなぞなぞやクイズを掲示して定期的に更新して楽しんでもらえる工夫をし
ていました。HPを活用して情報発信していました。
- オンラインでの懇談会を開いたり、グループラインを作ってもらって保護者同士の交流が
出来た
- 広報紙による情報発信を丁寧に行う。参加者の人数を制限して児童館での活動を見てもら
う機会を作る
- 「京都 BA.5 対策強化宣言」が出されている時は、感染拡大防止のためできるだけ主催事業
などは対面で行うのは避け、ZOOM 会議や書簡でのやり取りに徹しました。9月末で終了
することに伴い、主催事業については、感染対策を厳にして行うことにしています。
- あくまで、感染者を出さないために入館時の熱チェック、手洗い、消毒に努めた
- 行事に制限(クラスごとの運動会や生活発表会、保護者2名等)をし、実施した
- 現在は通常通りだが、その間は電話で連絡を取り合っていた
- 作業において、忙しい時期にボランティアさんに来ていただくように声掛けを行っている
看護実習生の受け入れを行っている
- 生活棟に入らない形でのボランティア交流やオンラインでの学生ボランティア児童との
交流にもチャレンジした

3 2の取組でどのような結果(効果)がありましたか(コロナ下において、施設・事業所と地域、利用者と地域の関係が変化したと思いますか)?具体的なエピソードがあればお聞かせください。

(高齢)

- 利用者は役割が増えたことで積極的に活動してくださっています。野菜販売は、施設受付で販売しており、今後は、口コミで広まれば、地域の方が足を運んでくださればと考えています。
- 具体的な効果はわからない
- 外部との活動がほぼできなかったため、施設の事業のみで特に変化なし
- 外部との活動が止まってしまっているため、施設の職員が行委を実施。特に変化はなし。
- コロナ下で参加できない為、特になし
- 実際にどの程度の感染予防効果があるのかわかりにくいケースが生じた
- ・内容がマンネリ化していたが新鮮だったという声があった
・関係性を気づくことで気軽に相談していただけるようになった
- 体力測定会では、少人数で行ったが、今現在の自身の体力や、筋力が数値、図式化したものが提供できてよかった。

(障害)

- 今まで関わることのなかった人から声をかけられることが多くあった。
- 送り火屋上開放では、地元住民50名余りが来所され喜んでいただけたと感じています。次年度以降も続けていく予定です。
- ・たよりは継続して配布や掲示をすることで、文面をちゃんと読んで頂いていると感じる場面が増えてきた。施設の駐車スペースで月に1回、パン販売を行うことを企画し、回を重ねるごとに近隣住民のお客様が定着した。
- 施設の運動設備(ウォーキングマシンなど)を一般開放し、施設見学を兼ねて来所頂くイベント(オープンデイ)を初めて企画した。少人数ではあったが、社協役員の方など、お声を掛け合って参加いただいた。また、陶芸教室も開催し、申し込み制で密にならない工夫をしながら、親子連れや大人の方にも多く参加いただいた。
- 小学校との関係は幸いにも絶えることはなく、作成したビデオは2年間に渡って活用いただき、低学年から高学年まで幅広く学習の機会を持ていただいた。
- 同じように参加をしているつもりでも急にイベントが中止になるなど、やはり地域とのつながりは薄くなっているように感じる

(児童)

- ①コロナ前まで続けていた取り組みを、再開するためにも今の小さな繋がりではありますが、続けることが、再開がスムーズにいくかと期待しています。②児童館、学童への関心や協力が多くなった。関係性が深まった。
- 具体的な効果はわからないが、実施するにあたって「何を大事に考えるか？」について意見交換ができる機会は重要だと思った。
- 高野児童館での親子交流の取組は、親子で楽しい時間を過ごせて喜ばれていました。前任の児童館の取組では、通りがかった地域の方が足を止めてみている姿がありました。掲示板の内容更新を楽しみにしていると声をかけてもらっていました。館の活動や取組を知ってもらうきっかけになりました。
- 地域の方に来ていただいてボランティア活動をしてもらっていたがきていただけなくなった。利用者数が減って学童クラブが主体になってしまうので今後の課題です
- 関係を深めることはできないが、保護者や地域の人々とのつながりを保つことはできた
- 地域やほかの施設・事業所とは、そのことについては互いに理解し合い、共通認識で活動を進めています
- おかげさまで、当院での感染者はなかった
- クラス単位のため、ゆっくり見られたとの保護者からの声。
- 大きく変化したいとは思わないが、直接、顔を見てつながることの大切さを実感できた
- 普段と違う人が来所頂くことで、緊張感があったり、会話を通して交流が生まれたりして刺激になっている

4 この間のコロナで感じられたこと・考えられたことなどがございましたら、ご記入ください

(高齢)

- 世の中の感染対策を緩めるスピードと高齢者施設の現状にギャップがあり、様々なことが進めにくく感じています。
- コロナに関係する業務が増えている。またスタッフが休みになるので、どこの施設も疲弊している
- どの範囲で、や、状況でどのような交流が大丈夫なのか？基準等がはっきりしたらボランティア等の交流を再開していきたい
- どのような状況になったらどういう交流が出来る基準がはっきりわかりやすく教えていただきたい。外部の方との交流を皆さん楽しみにされているので
- 家族の面会を制限している中でのボランティアの受け入れや外部との接触は難しい
- ご利用者のためにはボランティアに来て頂いたり、以前のように地域活動に参加できたりする方がよいと思う。しかし感染予防の観点から考えるとできるだけ外部との接触は避けた方がよく、悩むところである
- ご利用者様のためにはボランティアに来て頂いたり、以前のように地域活動に参加する方がよいと思う。しかし感染予防の観点から考えるとできる限り外部の接触は避けた方がよく、悩むところである
- 感染予防と日常活動との兼ね合いの困難さを実感している
- 1などの課題はまだまだある中、地域との関わりを途切れないようにしていきたい。地域(学区)それぞれの特性をいかした取り組みをしていきたい
- 10月からは、With コロナでできるだけイベント、行事を行いたい。

(障害)

- コロナで地域の方や機関とのつながりが気薄になりました。季節感のあるイベントもなくなり、何か淡々と少しているように感じています。アフターコロナでコロナ前と同じ生活に戻せるのか不安があります。
- まだコロナ感染の波がいつやってくるかわからない不安があるので、屋内でのイベントには躊躇しています。屋外イベントは自事業所ではスペース的に困難なので、左京全体でイベントができれば参加したい。
- 孤立しがちで、情報収集にも困難を生じることの多い障害のある方々、世帯にとっては大変苦しい生活が長引いています。適切に情報提供をしながら、社会生活を継続できるような取り組みが求められると感じます。特に、施設事業所の利用に至っていないような、在宅生活の方には手が差し伸べにくい状況にあります。
- 以前の状態に完全に戻るのは不可能で、新しいやり方をどんどん実践していく必要性を感じる

(児童)

- コロナ感染症が始まった時期は誰もが対応策もわからず、恐怖と不安でいっぱいでした。しかし、少しずつ予防策や生活の中での工夫もわかりはじめ、当施設も出来ないばかりではなく、どうしたらできるのか？についてたくさんの工夫をしました。
- 工夫をすることで無駄なことの気づきもあり、行事や生活のなかで、効率よく進めることが出来たことも多かった。又、地域の教育関係機関（保育所、小学校、中学校）との関係性も強くなったことは、今後の地域交流事業を行うにあたりプラスだと思う。
- コロナでは当たり前前の日常があたり前で無くなったことも多かったが、その反面気づきも多かったと思う。
- ・人と人が対面で接することの大切さ。
・本当に大切にしなければならぬことは何か、を考えることが多かった。
- 「感染対策をした上での実施」はかなり困難であった。「リスクが少しでもあるなら中止」のいう選択の方が問題が発生しにくい、同時にモヤモヤが大量発生するのでは？と考えた。「何かあったらどうするの？」の声に押されて、ルールの矛盾もたくさんあり、子どもに丁寧に説明できないことが一番良くないと思った。きちんとリスクとメリットを天秤にかけて、判断して説明できるようにしたいと思ったが、そうではないことの方が多かったのでは？と思う。そういう意味でも、大人同士の対話が大事と改めて思った。
- コロナだからできないではなく、この状況だから地域にある子育て支援施設として果たすべき役割や出来ることは何か、ということを普段から利用している方やお世話になっている地域の方の顔を思い浮かべて考え、行動していくことが大切だと思います。
- マスク生活に慣れてしまい、表情がうかがいにくい。密になりにくい工夫をしながらも少しずついろいろな行事をやろうと職員も取り組んで行った
- とにかく、早く終息してほしいと願います
- コロナ禍ではありますが、以前に増して地域とのきずなが深まっているように感じます
- 第7波も沈静化してきている折、屋外での活動にマスクは必要なのか、政府のみならず、保健所などでも指針を示してほしい
- 園児や職員のコロナ感染となり、休園（R3年度3回、R4年9月末までのクラス休4回）でのPCR検査等対応に苦慮した
- どの事業所さんもコロナ感染対策をしながら精一杯頑張っておられるということ
- 外での活動やボランティアさんの受け入れができにくく、活動が内向きになっている
- 施設内でコロナ感染が広がるとスタッフも含め拡大スピードが速かった。子ども達のストレスが大きく、スタッフも人手不足の中疲弊しきっていた。人混み、イベントへの参加も見送ったものが多く、子どもの経験不足は気がかり。

(2) ボランティア受入に関する調査

① 広告媒体

(回答 24 複数回答あり)

ホームページ	18
Facebook	4
Twitter	1
Instagram	1
広報誌	9

② 社会福祉協議会、区ボラセンにご協力いただくことが可能なこと

(回答 26 複数回答あり)

ボランティア講座・福祉教育	5
地域・企業からの寄付等の受け入れ	6
賛助会員の協力	4
社会福祉実習生の見学・体験の受け入れ	8
ボランティア活動希望の見学・体験・継続活動の受け入れ	14

③ 社会福祉協議会、区ボラセンにおいて、ご興味・ご関心のある連携先・連携の内容

(回答 18 複数回答あり)

地域のボランティア活動	7
学区社会福祉協議会	11
子ども食堂等子どもの居場所	7
防災に関する取組・研修	8
区社協・区ボラセン主催事業への参加	6
職員研修	6
広報の協力(行事)・イベント、ボランティア募集等	5
その他	
・現在のボランティアの受け入れをストップ	1)
・今のところ考えつきません	1)
・若者支援、制度のスキマでの情報共有	1